

令和4年度
岐阜工業高等専門学校
参与会報告書

令和4年9月

岐阜工業高等専門学校 参与会

岐阜工業高等専門学校 参与委嘱者名簿

(五十音順, 敬称略)

うしごめ すすむ 牛 込 進	株式会社TYK 代表取締役会長 (岐阜県工業会 相談役)
おおはし よういちろう 大橋 洋一郎	中日新聞 岐阜支社 報道部長
かくた のりよし 角 田 範 義	豊橋技術科学大学 理事・副学長
かねまつ のぶかず 兼 松 伸 和	岐阜県商工労働部 次長
	代 理 とう やすひこ 産業技術課長 郷 泰彦
ところ てつろう 所 哲 郎	岐阜高専同窓会 (若鮎会) 会長
ひろせ りょう 廣 瀬 良	岐阜県中学校長会 会長 (各務原市立那加中学校 校長)
ふじわら つとむ 藤 原 勉	本巣市長 欠席
むらい としあき 村 井 利 昭	岐阜大学 工学部長
やしろ てるひこ 矢 代 照 彦	岐阜工業高等専門学校 教育後援会 会長

参与会出席者名簿

(岐阜工業高等専門学校 関係者)

伊津野 真一	校長
北川 秀夫	副校長 (教務主事)
柴田 良一	欠 副校長 (研究主事)
角野 晴彦	席 副校長 (学生主事)
中島 泰貴	副校長 (寮務主事)
吉村 優治	点検評価・フォローアップ委員長
亀山 太一	点検評価・フォローアップ委員WG長 図書館長
山田 実	点検評価・フォローアップ委員副WG長 テクノセンター長
鶴田 佳子	点検評価・フォローアップ委員副WG長 専攻科長補佐
片峯 英次	専攻科長
久保田 圭司	一般科目 (人文) 学科長
山本 浩貴	一般科目 (自然) 学科長
石丸 和博	機械工学科長
富田 睦雄	電気情報工学科長
遠藤 登	電子制御工学科長
水野 和憲	欠 環境都市工学科長
青木 哲	席 建築学科長
羽瀨 仁恵	欠 国際交流室長
安田 真	席 情報処理センター長
櫻木 耕史	学生相談室長
羽室 秀樹	事務部長 (兼 学生課長)
竹中 久雄	総務課長

参与による点検・評価票

点検・評価実施年月 2022年9月

点検・評価対象期間 令和3年(2021)年度～令和4年(2022)年度

評価ランク	
評価5	非常に優れている。評価4：良好である。評価3：おおむね良好である。
評価2	やや不十分である。評価1：不十分である。

A	本校いじめ対策等の現状（学生相談室）
	<p>【5段階評価】 評価5 評価4 4人 評価3 4人 評価2 評価1 3.5点</p> <p>【自由記載欄】</p> <p>【B】いじめ、ハラスメント対策を誤ると学校の評価は大きなダメージを受けます。高専の位置づけは他の学校とは異なるかもしれませんが、実際に事案がある以上、とにかく早めに対処すべきです。寮生活という逃げ場のない環境にいる生徒は特に、ケアが必要でしょう。学校だけでは限界があるので、たとえば夜間も相談を受け付けている機関を周知するなどして、外部の専門家になるべく多く関わってもらうことが効果的だと考えます。</p> <p>【C】校長を中心とする組織が対応しています。アンケート等による対策が進んでいます。</p> <p>【E】複数の参与から質問や確認があり、重要な事項であると判断するとともに、岐阜高専としても真摯に取り組んでおられることを評価します。</p> <p>最初の現状報告スライドにあった事例に対して、機構本部からは全教職員に非常に分量のある報告書を読むように指示がありました。その報告書の中では、機構本部や当該高専関係者の対応は完全では無かったと指摘されていたと読み解きました。外部委員による報告書を踏まえて機構本部や当該高専関係者に、どのような事後対応や措置がなされたかまでを可視化することで、より、「自分事」としての理解や心構えが教職員全員に浸透するものと思います。P→D→C→Aの後半の可視化が大切だと思います。</p> <p>【F】今回の説明でみえにくかったところとして、5年制（専攻科を合わせると7年制）の学校という特色や、寮生活を送る学生が多いことから、高等学校や大学と違う事態を想定した対策等を明確化できるとよいと感じた。</p> <p>【G】具体的な対応策としては、年4回のアンケートによる把握から始まるということです。参与会でもコメントがありましたように、いつでも学生が相談できるような気楽な体制、周りの人が、気がついたら連絡できるような雰囲気があればいいと思います。</p> <p>【H】どんな小さな報告でもすぐ校長まで報告するシステムが必要。</p>
B	本校の質保証重点6項目の現状（教務関係）
	<p>【5段階評価】 評価5 1人 評価4 5人 評価3 2人 評価2 評価1 3.9点</p> <p>【自由記載欄】</p> <p>【A】全国の中でも高い評価をされており、先生方の意欲を強く感じている。</p> <p>【B】ピアサポーター育成を重点のひとつに掲げているのはいいことだと思います。ピアサポート活動の経験は今後、さまざまな分野で役立つのではないのでしょうか。</p> <p>【C】6項目は推進すべき重要な点を表しています。通常の運営でも達成できることも含まれていますので、負荷がかからないように進めてください。</p> <p>【D】分野横断的能力の育成や地域課題の解決を図る協同教育、学生が学生を教えることで人間力向上を図るピアサポーターなど様々な工夫をされている。</p> <p>【E】次々に機構本部や社会から新しい教育改善課題が届く中、岐阜高専教職員は真摯に学生教育の質保証に向けて取り組んでおられることを理解しています。</p> <p>しかしながら、それらの取り組みが行われていることの教職員間での共有や学生への広報が、まだまだ不十分であることは、参与会での説明スライドからも明らかです。これらの取り組みの保護者や卒業生、地域社会などへの広報もまだまだ不足しています。創立60周年を迎える高専の認知度がいまだに不足していると指摘されることは、これらのことを物語っています。</p> <p>6つの取り組みが、担当主事などの取りまとめで行われることは仕方ありませんが、それらはすべて教職員全員が関与すべきこととして、全教職員が共有する現状と課題となることが望まれます。そのためには、長年慣習的に実施してきた事項についても削減やICT活用など、業務改善による空き時間の確保がまずは望まれます。</p>

	<p>【F】義務教育では、キャリアパスポートの作成が義務付けられており、高等学校進学の際にはそれを持ちあがることになっています。ポートフォリオとの関連を図っていただけるとありがたいと思います。</p> <p>【G】授業などの通常業務に加えて、重点6項目に対応することは、避けた方がいいかと思えます。すでに多くのことが実施されている中での項目です。これまですでに高専で行っている授業を含めた活動を横軸に、縦軸に重点6項目を入れて、該当する部分に○を入れていくと、おおむね達成できているのではないかと推察します。その上で、足りない点を点検して改善すればいかがでしょうか。</p>
	<p>第4期中期目標関連（外部資金・寄附金その他自己収入）</p> <p>【5段階評価】 評価5 評価4 3人 評価3 5人 評価2 評価1 3.4点</p>
C-1	<p>【自由記載欄】</p> <p>【B】どんな研究が科研費などを獲得しやすいのか情報を持ち合わせていませんが、たとえばスタートアップ企業との協同などはウインウインの関係になるのでは、と考えます。国の方針もあり各県がスタートアップの育成に力を入れ始めており、県を通じて連携先を探すこともできるかと思えます。既に取り組んでおられたらすみません。</p> <p>【C】よく頑張っていると思います。個別の教職員だけでなく、複数者あるいは校長等を代表とする組織での申請も考えてください。科研費での大型予算獲得につながればと思います。</p> <p>【E】外部資金の獲得は、高専機構本部による活動予算が増えるにつれ、各高専への配分額が削減されつつある中、現在および今後の岐阜高専存続の要であると思えます。その点、近年の高専内順位の凋落は危惧すべき事項であると思えます。</p> <p>外部資金獲得が上位である高専は、若手教員を含めた資金獲得があり、そのための広報活動が活発であると思えます。9月5、6日に開催された高専フォーラム2022でも、他高専では多くの若手教員が機構本部と連携した活動などを活発に展開していました。（本校は、柴田+校長・亀山・所の老齢教員のみ）</p> <p>是非、中堅および若手教員の大型外部資金獲得を推奨し、採択時には学校としてのサポートを校長主導により確約することをして頂きたいと思えます。近年は過去の教職員が獲得し構築してきた外部資金獲得ルートに、中堅・若手教員の応募が甚だ不足していることを危惧しています。</p> <p>【F】コロナの影響もあり、日本全体の経済力が低下している中、学校の大変さがよく理解できた。</p> <p>【G】科学研究費を初めとする外部資金の獲得は、申請書の内容や書き方と、不採択でもへこたれずに翌年改めて挑戦する姿勢が大切です。書き方については、場合によっては学外の方にお問い合わせでも講演会を開催されるといいです。（すでに実施済みかもしれませんが）</p> <p>また個別の申請書を申請前に事前に建設的にチェックする体制もあればいいです。</p>
	<p>第4期中期目標関連（教員の人事関係）</p> <p>【5段階評価】 評価5 評価4 6人 評価3 2人 評価2 評価1 3.8点</p>
C-2-1 (教員)	<p>【自由記載欄】</p> <p>【B】現状では非常勤に依存するのも仕方ないかなと思えます。</p> <p>【C】これからも優れた人材の確保に努めてください。高専の教職員は忙しいので、大変ですが。</p> <p>【E】教員の定年前の退職があることは、本校の待遇になんらかの不満があることを示唆するかもしれませんが、新たな人材をその都度補填できるチャンスでもあり、前向きにとらえれば問題ないと思えます。</p> <p>優秀な人材が去り、そうでない人材のみが留まることを避けるため、人事評価の可視化もある程度は必要であると思えます。例えば優れた外部資金獲得教員を学生や保護者に伝え、顕彰すること。また、優れた授業実施教員に、教職員へのFD活動での講演を依頼し、どのような授業が学生に支持されているかを学生及び教職員に可視化するなどです。個人へのボーナス等での金銭的評価は、当該教員は認知するものの、当該教員以外は評価されなかったことを残念に思い、具体的な良い取り組みの紹介もなされず、結果として可視化不足の一つに繋がります。</p>

	<p>【F】義務教育においても教職員の確保が喫緊の課題であるように、高専においても同じような状況があることが理解できた。仕事の質や量に相応した給与でなければ、優秀な人材が確保できないのはどこも同じ。</p> <p>【G】在籍する先生方が「よし、もっとやってみよう」と思える評価制度がいいです。簡単ではないですが。</p>
C-2-2 (職員)	<p>第4期中期目標関連 (事務・技術職員の人事関係)</p> <p>【5段階評価】 評価5 評価4 5人 評価3 3人 評価2 評価1 3.6点</p> <p>【自由記載欄】</p> <p>【C】校長のリーダーシップにより、順調に行われていると思います。</p> <p>【E】事務・技術職員の定年前の退職があることは、家庭の事情などもあるかとは思いますが、やはり円滑な業務引継ぎなど一定の作業の増加は発生しますので、できれば避けたいことです。</p> <p>課長や課長に準ずるポストに空きがあるということは、若手事務職員の育成が不十分であるか、もしくは若手職員が管理職など上位ポストを積極的に望んでいないことと読み取れますので、事務・技術職員の中から若手を積極的に登用し、魅力ある職場となるように、業務改善等を推進して頂くことを望みます。</p> <p>【F】任期満了前退職者が教員6年間で26人にもなる理由が知りたい。課題は給与なのか、処遇なのか？</p> <p>【G】職員の方には、高専の活動や躍進に貢献しているのだという自分自身の「存在感、貢献感」が湧いて来るような仕組みが望ましいです。こちらも難しいですが。</p>
	<p>第4期中期目標関連 (コロナ感染症対応)</p> <p>【5段階評価】 評価5 5人 評価4 3人 評価3 評価2 評価1 4.6点</p> <p>【自由記載欄】</p> <p>【B】教職員の皆さんは大変ご苦労されていると感じます。国などの一定の基準に従った授業のオンライン化はやむを得ないことなので、より効果的な活用法を探っていくしかないでしょう。</p> <p>【C】コロナ禍での「新しい生活様式」を取り入れた高専独自の対応が行われています (IT化等)</p> <p>【D】遠隔授業やワクチン職域接種など様々な対策に迅速柔軟に取り組まれている。</p> <p>【E】前年度までのコロナ感染症対応期間に、入試倍率や外部資金獲得など、全国同時発生事項であるにもかかわらず、多くの指標で岐阜高専の能力や評価が低下したことは評価・点検事項から明らかです。新校長にはこれらの低下した指標の回復とさらなる改善に向けたコロナ感染症対応を期待します。</p> <p>【F】この3年間、日々変更に対応することの大変さは実感しています。また、寮を抱えていることからさらに対応に尽力していらっしゃることに敬意を表します。</p> <p>【G】暗中模索でも、適切にタイムリーに対応していただけてと感じました。この二年半一般に、学生にとっては、その年にしかできない、かけがえのない多くの経験ができない状況です。少しでもマシになればと願っています。</p> <p>【H】対面授業が継続できるよう対策を充実してもらいたい。</p>
C-3	<p>【その他、ご意見・感想など、ご自由に記載ください】</p> <p>【B】岐阜高専の魅力は、なかなか一般には知られていません。細かいことでもメディア向けに情報を発信し続け、なるべくお金のかからないPRを心がけていただきたいと思います。</p> <p>【C】順調に学校運営が行われています。</p> <p>【D】県内企業の岐阜高専に対する評価・期待は極めて高く、少しでも多くの学生が県内に就職していただけることを期待しています。</p> <p>【E】・APホームページへのリンクの作成。 メインバナーへの掲載は無くして頂いて結構ですが、できればAPマークとリンクを適所に復活してください。リモートデスクトップやMathcad(数学CADソフト)が100名利用できるICT活用環境は、全国高専1位だと思います。また、その活用は残念ながら本校教職員にあまり浸透していないので、FD活動などで広報する時間と機会を頂ければ実施させていただきます。</p> <p>・岐阜高専シニアOBによる中核人材育成塾による地域貢献活動の顕彰。 過去10年、有料の社会人リカレント教育を岐阜高専で継続し、4000名を超える参加者を得ている</p>

実績は、全国高専1位だと思います。是非、その存在の高専機構内での可視化などを行うとともに、本校の60周年記念式典などで創設時メンバーを顕彰してください。記念品代など、必要であれば若鮎会で協力させていただきます。なお、中核人材育成塾による人材育成の詳細は、加藤教授の紹介による学会誌の論文11月号に論文掲載される予定です。

・岐阜高専創立60周年後の若鮎基金の継続。

岐阜高専が若鮎基金による学生の顕彰を継続される場合、10年分の基金の増資に若鮎会として対応します。その他、創立60周年を契機とする同窓会との連携の拡充についても是非ご検討ください。

【G】ここで学んだ学生さんが卒業後「豊かな人生を送ること」をモットーに教育・指導を展開されること、お祈りしております。